

第3学年1組 国語科学習指導案

指導者 城戸 昂一

1 単元名 「夏草—『おくのほそ道』から」

2 目標

- 芭蕉のものの捉え方や歴史的な背景に着目して読むことを通して、今も私たちの生活に息づいている芭蕉の世界観に親しむことができるようにする。 【知識及び技能】
- 現代語訳や語注などを手がかりにして作者の行動や情景を読み取り、俳句に込められた作者の思いを想像することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
- 今までの学習（旅に対する芭蕉の想い・人間、社会、自然など）を生かし、芭蕉の句が現代まで読み継がれている理由について自分の考えや意見を進んで伝え合おうとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

3 計画（7時間）

知：知識・技能 考：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度 【書く活動はゴシック体】

次	学習活動・内容	『問い』	教師の支援	評価の観点
1 1時間	1 芭蕉にとって『おくのほそ道』の旅がどんな意味をもっていたのか予想する。 (1) 芭蕉について知っていることを書く。 (2) 現代と江戸時代の旅についての捉え方の共通点と違いについて考える。 (3) 当時の芭蕉が置かれていた立場について知る。 (4) 芭蕉が旅に出た理由を文章化する。	○芭蕉はなぜわざわざ命がけて『おくのほそ道』の旅に出かけたと思うか。	○現代の旅と、芭蕉の旅との意味合いの違いに気付かせるために意図的な発問（ヒントカード）や旅の地図を準備する。 ○本単元の中心が「旅」にあり、馴染み深い題材であることを意識させるためにそれぞれの予想を交流させる。	態：自分なりの予想を立て交流することを通して考えを深めようとすることができる。 考：思考を重ねながら、芭蕉が旅に出た理由を自分の言葉で表現することができる。
2 5時間	2 『おくのほそ道』の冒頭を読み深める。 (1) 本文と現代語訳を見比べながら芭蕉のものの捉え方を考え交流する。 【書く活動Ⅱ】 (2) 芭蕉の旅に対する捉え方を踏まえて、「草の戸も～」の俳句を詠んだときの芭蕉の心情について想像し、書く。 3 旅の行程（深川～松島）の中で芭蕉が詠んだ俳句について読み深める。 (1) 芭蕉が訪れた地がどんな場所だったのか基本知識を理解する。 【書く活動Ⅱ】 (2) その時々の芭蕉の心情について想像して書く。	○芭蕉にとって旅とはどういったものだったと考えられるか。 ○芭蕉はなぜ庵を訪れ、この俳句を残していったのか。 ○芭蕉はなぜこの地を訪れたのか。 ○芭蕉はどんな気持ちでこの俳句を詠んだと考えられるか。	○本文から芭蕉の独特なものの捉え方に気付かせるために、ワークシートのヒントに沿って考えを記入し、交流させる。 ○この句に込められた芭蕉の心情を想像させるために、交流した内容を元に、俳句が詠まれたときの情景を読み取らせる。 ○芭蕉の心情を想像させるために、芭蕉がその俳句を詠んだ土地の写真やその状況が読み取れる資料（地の文）を提示し、書く活動Ⅱシートにまとめさせる。	知：文中から芭蕉のものの捉え方を読み取ることができる。 考：芭蕉の心情を想像し、文章にすることができる。 考：芭蕉の心情を想像し、文章にすることができる。
本時5/5	4 平泉に対する芭蕉の特別な想いを理解する。 (1) 奥州藤原氏の栄枯盛衰について知り、芭蕉の心情の動きを文章中から読み取る。 【書く活動Ⅱ】 (2) 芭蕉の平泉に対する特別な想いを理解し、「夏草や～」の俳句を詠んだときの芭蕉の心情について想像し、書く。	○芭蕉が涙を流したのはなぜか。 ○芭蕉はどんな気持ちでこの俳句を詠んだと考えられるか。	○芭蕉が涙を流した理由について考えるために、ワークシートの現代語訳を参考に線を引かせ、感じ取らせる。 ○芭蕉の想いに迫り、文章化させるために、書く活動Ⅱシートを活用する。	知：文章中から平泉に関する情報や芭蕉の心情の動きを整理しながら読み取ることができる。 考：芭蕉の心情を想像し、文章にすることができる。
3 1時間	5 芭蕉の句が現代まで読み継がれている理由を考える。 (1) 平泉から先の行程で詠んだ句も踏まえて、芭蕉の俳句の共通点を探る。 【書く活動Ⅲ】 (2) 芭蕉の句が現代まで読み継がれている理由を考え、文章化する。 (3) 芭蕉について知っていることを書く。	○芭蕉の俳句はなぜ人々の心をつかむのか。 ○どの俳句が最も好きか。それはなぜか。	○芭蕉の旅の目的を明らかにするために、句が詠まれたときの共通点を考えさせる。 ○古今共通の感覚に気付かせるために、好きな俳句を元に理由を考え、交流させる。 ○学習前と学習後の変化を見取らせるために再び芭蕉について知っていることを書かせる。	態：俳句が生活を豊かにすることを知り、伝統的な言語文化への理解を深めることができる。

5 【後期：充実発展期】

① 国語科における「見方＝視点」

俳句に込められた芭蕉の想いについて、根拠をもとに説明する。

② 思考内容「考え方＝方法」→「理由付ける・原因や根拠を見付ける」

『問い』→『「夏草や～」の俳句を詠んだとき、芭蕉の目には何が映り何を思ったのだろうか。』

6 本時の主眼

- 芭蕉が平泉で詠んだ俳句に込めた想いを文章中の表現や自身の体験から考え、根拠をもとに説明することができる。

7 本時の指導観

本単元の指導にあたっては、芭蕉が辿った道筋や俳句を通して芭蕉の旅を迫体験させることで芭蕉独自の感性に触れ、伝統的な言語文化への理解を深めることをねらいとする。そのために前時までには芭蕉のものの捉え方や歴史的な背景を理解した上で、それぞれの俳句に込められた芭蕉の想いを文章化させる。その際、書く活動Ⅱシートを活用し、芭蕉が詠んだ俳句及び文章や資料【事実】から、俳句を詠んだときの芭蕉の気持ちを想像する【主張】。そして、そのように想像した理由を俳句や文章の表現から読み取ったり、本人の生活体験をもとに文章化したり【理由付け】することで、書く活動Ⅱを展開したい。芭蕉の句が読み継がれている理由を考え、俳句と私たちの生活のつながりを捉える次時の書く活動Ⅲにつなげていく。

8 本時の過程

学習活動・内容	教師の支援	評価の観点	形態	配時
1. 前時を振り返り、本時の学習のめあてをつかむ。 (1) 芭蕉の足跡と俳句に込められた心情の確認をする。 ・(千住)旅立ちの寂しさと覚悟 など (2) 本文を丸読みし、めあてを確認する。	○前時を振り返らせるために芭蕉の旅や俳句に対する特別な想いを文章化したものを数名発表させる。 ○本日の活動の流れを意識させるために、旅程図と心情を書いた短冊を掲示する。		全	7
めあて 「夏草や～」の俳句に込めた芭蕉の想いについて根拠をもとに説明しよう。				
(3) 本文の中で芭蕉の心情がよく現れている箇所を探す。 ・「時のうつるまで涙を落としはべりぬ」	○芭蕉の心情を捉えさせるために、ワークシートの現代語訳を参考にし、原文に線を引かせる。		個 個 全 班 全	25
2. 芭蕉がなぜ涙を流したのかについて考える。 (1) 奥州藤原氏の栄枯盛衰の歴史について知る。 【書く活動Ⅱ】※書く活動Ⅱシートに記入する。 (2) 現代語訳や資料を参考に、【事実】を捉える。 ・今では草しか生えていない ・漢詩を思い出した (3) 芭蕉の気持ちを想像する。【主張】 ・昔ここでたくさんの戦いがあって命が散ったことを想像すると涙が出てきた。 ・奥州藤原氏の栄えていた時代はここに城があったはずなのに、今は何もなくて、時代の流れにさみしさを感じている。 (4) 文中や俳句の読み取り、自身の経験から【理由付け】を考える。 ・「夏草」が草が茂った様子を表しているから。 ・「草の戸～」の俳句でも時の移り変わりのことについて詠んでいたから。 ・そこにあったはずのよく行っていたお店がなくなっているのを見たとき寂しさを感じたから。	○情景や話の内容をつかみやすくするために、年表等の資料を提示し歴史的背景を確認させる。 ○芭蕉の目の前に広がっている景色を想像させるために、ワークシートの現代語訳や、弟子の曾良の旅日記等の資料の中から今と昔それぞれの情景が読み取れる箇所に線を引かせる。 ○心情を想像しやすいように、芭蕉が見たであろう景色の写真や参考資料をロイロノートで提示する。その際、生徒自ら読み味わうことができるようにするために、必要最低限の情報にとどめる。 ○より芭蕉の心情に迫らせるために、自身の経験を書く枠を「書く活動Ⅱシート」の中に設け、交流する。		個 個 全 班 全	25
3. 芭蕉が「夏草や～」の俳句に込めた想いを班の中で説明する。 (1) 「書く活動Ⅱシート」をもとに、主張と理由付けを結びつけて文章にし、ロイロノートで班内共有する。 ・「草の戸も～」の俳句でも時の移り変わりの寂しさを詠んでいたため、ここでも、栄枯盛衰の無常を感じて「夏草や～」の俳句を詠んだのではないか。 (2) 全体で交流する。	○芭蕉が「夏草や～」の俳句に込めた想いを多角的な視点から考え、文章化することができるようにするために、「書く活動Ⅱシート」とロイロノートを使いながら班内で意見を交流する。 ○少しでもスムーズに書くことができるように、書き方のモデルを「書く活動Ⅱシート」を分割した形の掲示物で提示する。	考：芭蕉独自の視点に気づき、「夏草や～」を詠んだときの芭蕉の想いを説明することができる。	個 班 全	13
4. 振り返りシートの記入をする。 ・学習して気付いたこと ・学習後の感想 ・事前アンケートと同様のアンケート	○学習の到達度を自覚させるために、自分の考えと友達の発表を比べさせ、自己評価させる。		個	5

9 書く活動についての説明

(1) 書く活動Ⅱ

①【既習の知識】

芭蕉のものの捉え方や歴史的な背景の理解
俳句の表現技法

【問い】

「夏草や～」の俳句を詠んだとき、芭蕉の目には何が映り何を思ったのだろうか。

②、③、④は順不同

推論・解釈

②【事実】

- ・奥州藤原氏が栄えていた時代の跡は何も残っていない。そこにはただ草が生えているだけ。
- ・「国破れて山河あり」という漢詩を思い返しては、目の前に広がっている状況を重ねて涙を流した。

③【主張】

- ・昔ここでたくさんの戦いがあったって命が散っていったことを想像して、命のはかなさを感じているのではないか。
- ・奥州藤原氏の栄えていた時代はここに城があったはずなのに、今は何もなくて、時代の流れにさみしさを感じているのではないか。

④【理由付け】 見方・考え方

- 「涙を落としはべりぬ」とあるから。
- 「夏草」は雑草が生い茂っている様子を表しているから。
- 「夢」は「兵」＝奥州藤原氏、義経のことを表しているから。
- そこにあつたはずのよく行っていたお店がなくなっているのを見たとき寂しさを感じたから。
- 平和学習で大刀洗空襲について学んだとき同じような感覚になったから。

(2) 書く活動Ⅲ【学んだ内容・自分の考えの変容・学びの発展、転移性】

まとめ 『何を』

【これまで学んだことの明確化】

- 芭蕉の俳句には、その時目に見えた情景だけでなく、時の流れや人々の心情を想起させる力がある。

振り返り 『どのように』 『使えるか』

【既習の学習と新しく学んだ考え方をつなげてまとめる】

問い1 芭蕉の俳句はなぜ人々の心をつかむのだろうか。

- 言葉の選び方が秀逸ではあるが、時代背景を知らなくても楽しめるようなやさしい言葉で表現されているから。
- 庶民的な俳句が多く、生活に根ざしているものが多いから。
- 情景は時代とともに変わっていても、いつの時代も喜怒哀楽の感情はあり、共感できるポイントが芭蕉の俳句にはあるから。

問い2 古典と私たちの生活はどうつながっているのだろうか。

- 昔と今でライフスタイルは違っても、「美しいものを美しい」と感じる感性の部分はつながっている。